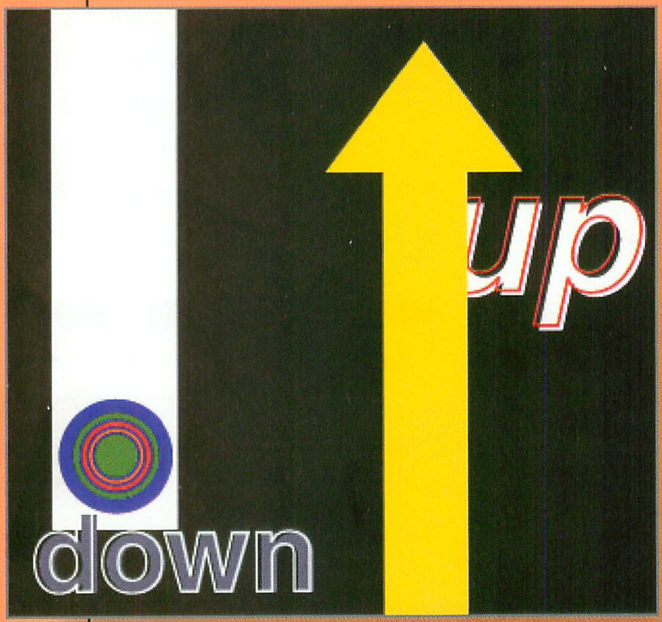


1 WEEK MASTER
2nd DAY !!!

Tuesday



今日マスターすること

TODAY'S GOAL !!!

「図形の編集をマスターしよう」

STEP 1 ・・(選択操作を修得しよう

STEP 2 ・・(基本的な図形の作り方

STEP 3 ・・(図形に色をつける

1 WEEK MASTER
2nd DAY !!!
Tuesday

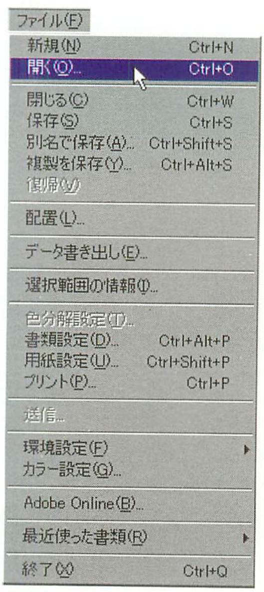
STEP 1 選択操作を修得しよう

選択操作はすべての操作の基本

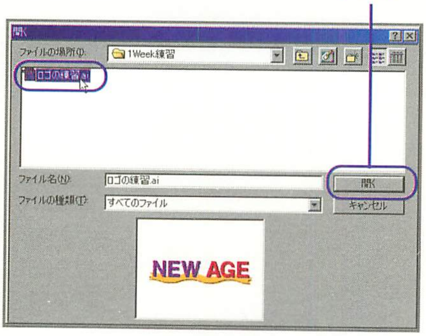
Illustratorで図形や文字を編集するには、最初にその図形や文字を選択しておく必要があります。これは月曜日の章でも少し練習したのでわかっていますよね。Illustratorでは複数の図形や文字を組み合わせながら、図版やイラストを作成していきますが、目的の図形などを正確に選択するということがとても重要です。そこで今日は、選択操作を身に付ける練習から始めましょう。

選択、選択解除→選択ツール

月曜日の章で作成したロゴのデータを開いて、いろいろ手を加えていきましょう。ここではロゴ全体を選択する方法や部分選択の方法をしっかり覚えてください。選択状態と非選択状態は、画面でどのように表示が違うかを確認してみましょう。また、選択を解除するという作業も、忘れられがちですが、とても重要な操作です。



1 「ファイル」メニューの「開く」を選択します。



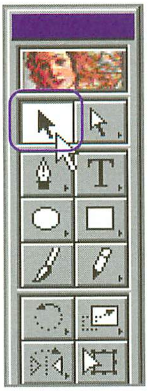
2 開くためのダイアログボックスが現れます。昨日保存したファイルを選んで、「開く」ボタンをクリックしてください。

☞ヒント!!

データのない人は、こちらをどうぞ

月曜日に作ったデータがない人は、特別付録CD-ROMにも完成データが入れてありますので、それを開いてください。「月曜日」フォルダの「ロゴの練習（完成）」です。

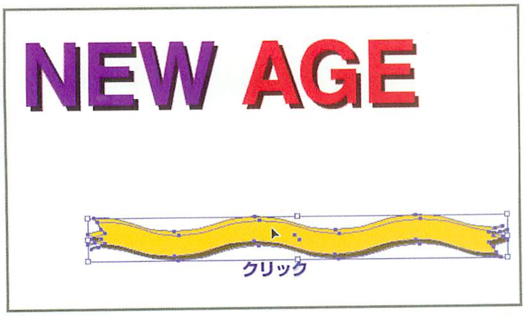




3 ツールボックスから選択ツールを選びます。選択状態にあれば、そのままで結構です。選び直す必要はありません。



5 これが選択状態です。文字の周囲にバウンディングボックスが表示されます。

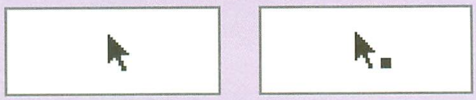


7 今度はリボンをクリックしてみましょう。リボンが選択状態になります。その前まで選択していた文字は自動的に選択解除になります。

ここがポイント!!

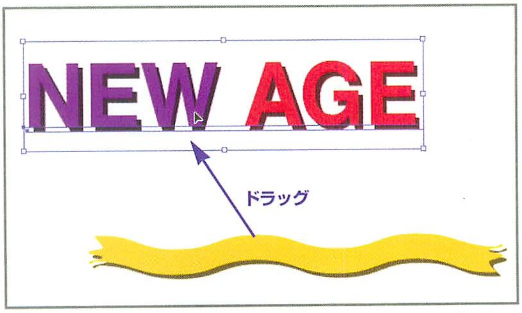
マウスポインタに注目

選択ツールのポインタは、通常はただの黒矢印ですが、図形や文字に重なると、わきに■マークが表示されます。

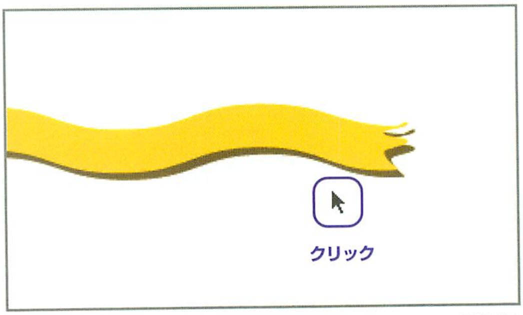




4 文字を選択しましょう。選択ツールで文字をクリックします。



6 文字を動かしてみましょう。ハンドル以外の部分をつかんでドラッグしてください。「ドロップシャドウ」で作った影も一緒に動きます。



8 それではリボンの選択を解除してみましょう。選択解除するには、図形や文字以外の部分でクリックします。

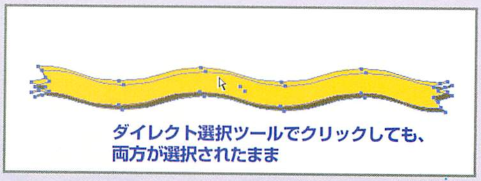
部分的に選択する→ダイレクト選択ツール

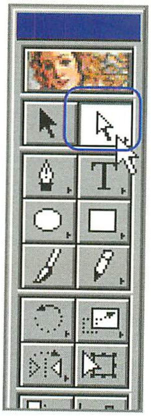
文字やリボンは、それぞれの影と一緒に動きましたが、これらはグループとしてまとめられているからです。月曜日で使用した「ドロップシャドウ」では、自動的に影をグループにしてくれるのです。影とまとめて動かすことができるので非常に便利ですが、影の部分だけをずらしたいというときもありますよね。そんなときに便利な方法を紹介しましょう。それにはダイレクト選択ツールを使います。動かしたいものだけをクリックすると、グループとは関係なしにクリックしたものだけが選択されます。ダイレクト選択ツールをうまく使うコツは、選択が解除されている状態で使用することです。すでに選択状態にある図形の上でいくらクリックしても、何も変化しません。

ここがポイント!!

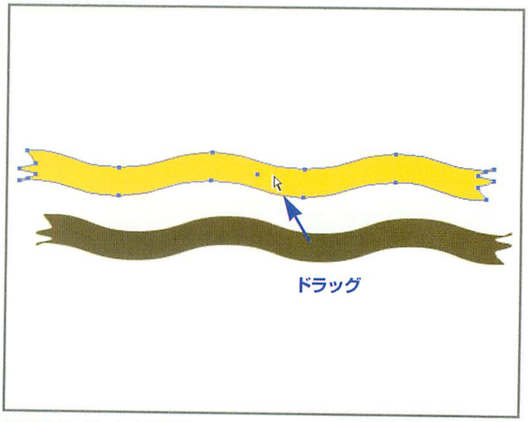
選択解除しないと、こうなる

もしリボンと影が両方とも選択状態にあったら、片方だけを選択し直すことはできません。一旦、選択解除してから、再度選び直してください。





1 ツールボックスからダイレクト選択ツールを選びます。選択ツールの隣の白矢印のツールです。

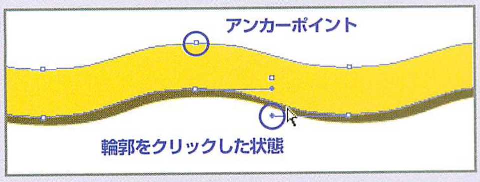


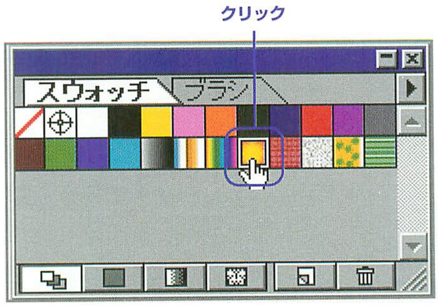
2 ダイレクト選択ツールでリボンをドラッグしてみましょう。そうすると、リボンは影と別々に動きます。

ここがポイント!!

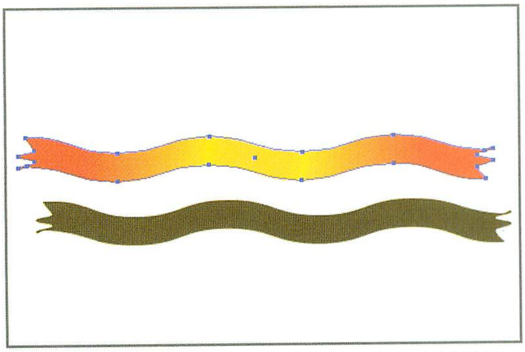
ダイレクト選択ツールではクリック位置に注意

輪郭部分をクリックすると輪郭だけが選択されます。図形全体を選択したり動かしたいときには、図形の中央部分をしっかりクリックしましょう。アンカーポイントと呼ばれる四角いマークの色が違うのでわかります。

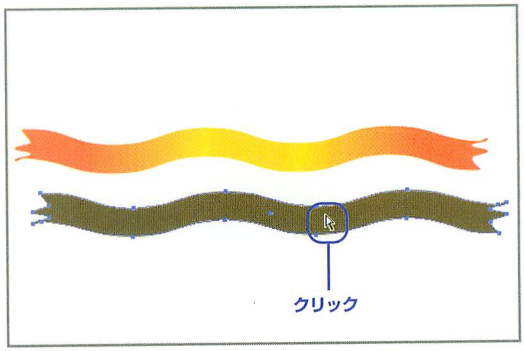




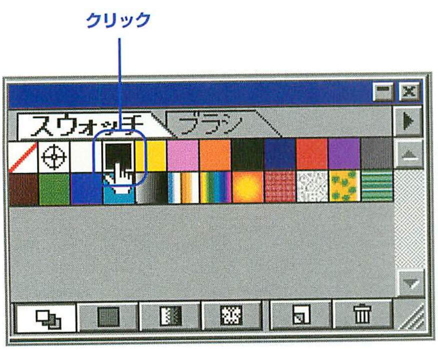
3 スウォッチパレットで色を変更してみましょう。スウォッチパレットには単色のほか、グラデーションやパターンなども用意されています。ここでは黄色とオレンジのグラデーションを選んでみます。



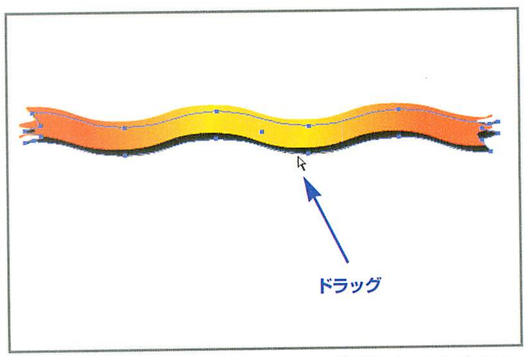
4 グラデーションにすると、もっとリボンっぽく見えますよね。



5 影の色も変えてみましょう。ダイレクト選択ツールのままで、影をクリックします。



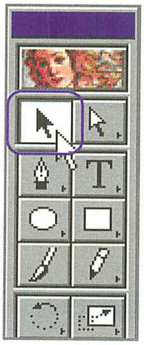
6 スウォッチパレットから黒を選択します。



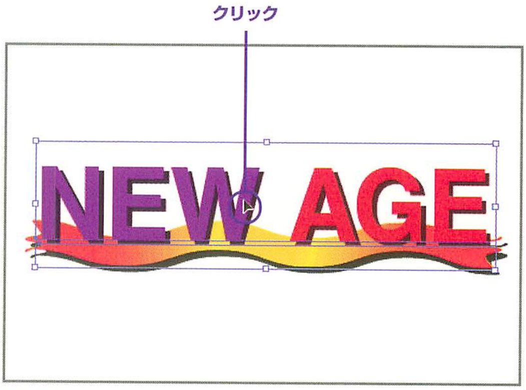
7 影を移動して、影らしく見える位置にしてください。文字も元の位置に戻しておきましょう。

「前後関係を変える」→「背面へ」「最背面へ」

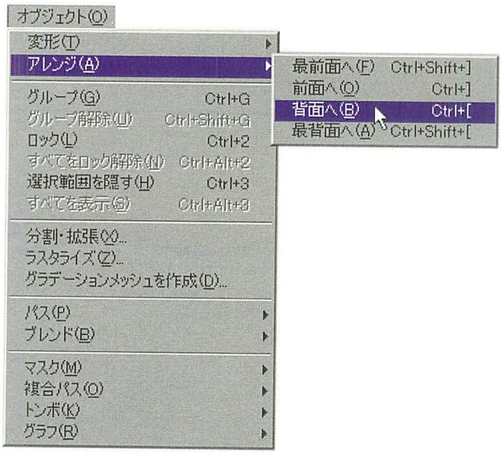
Illustratorで作ったものには必ず前後の関係があります。最初に作ったものが背面になり、あとから作ったものが次々に前面（上）へと重なっていきます。もちろんこの順番は、変えることが可能です。Illustratorではこの前後関係をうまく利用して、図版やロゴ、イラストなどを作成していきます。ここでは前後関係を変更する練習をしましょう。



1 ツールボックスから選択ツールを選びます。



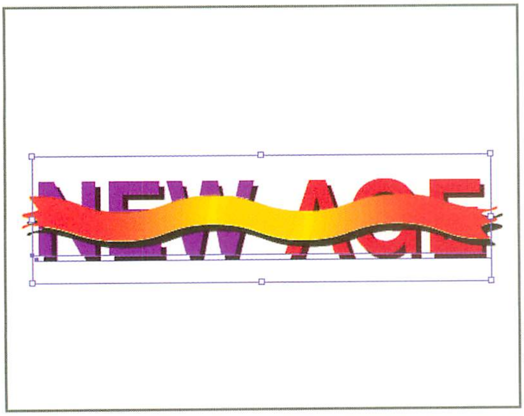
2 選択ツールでロゴの文字部分をクリックして選択してください。



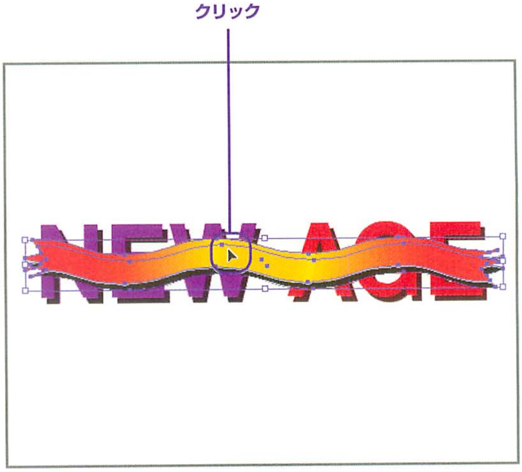
3 「オブジェクト」メニューの「アレンジ」から「背面へ」を選びます。今はリボンと文字の2つしかないので、「最背面へ」を選んでも同じ結果になります。なお、グループ状態の図形は1つと見なされます。



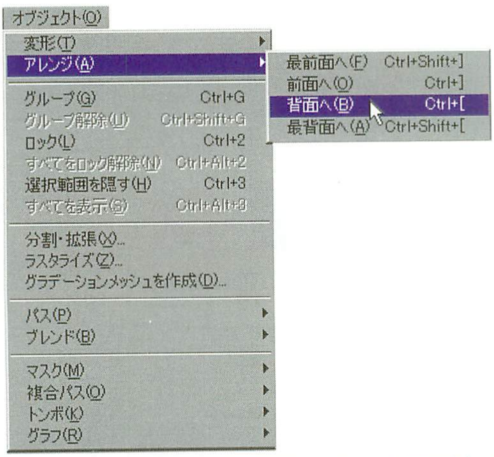
4 選択していた文字が、リボンの背面へ移動します。選択解除はしないで続けて作業しますよ。



5 そのまま文字をドラッグして下の方に動かしてみましょう。すっかりリボンの後ろになってしまったのがわかりますよね。



6 真ん中あたりのリボンの部分をクリックしてみましょう。そうするとリボンが選択されます。当たり前といえば当たり前なのですが、複数の図形や文字が重なっているところをクリックした場合は、一番前（上）に重なっているものが選択されます。



7 リボンが選ばれている状態で、もう一度「オブジェクト」メニューの「アレンジ」の「背面へ」を選んでください。



8 リボンが文字の後ろへ行ったはずです。選択を解除して確認してください。

複数の図形を選択→ドラッグ

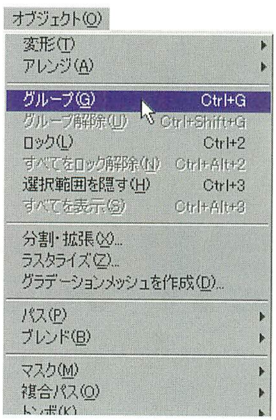
複数の図形や文字を選択する方法はいくつかあるのですが、最初にもっとも簡単な方法から覚えてください。選びたい図形や文字をドラッグして囲むだけです。Illustratorの場合は、ドラッグした範囲内に図形や文字の一部分が入っていれば、ちゃんと選択をしてくれます。全体をすっぽり囲まなくても大丈夫なので、スピーディーに操作できます。



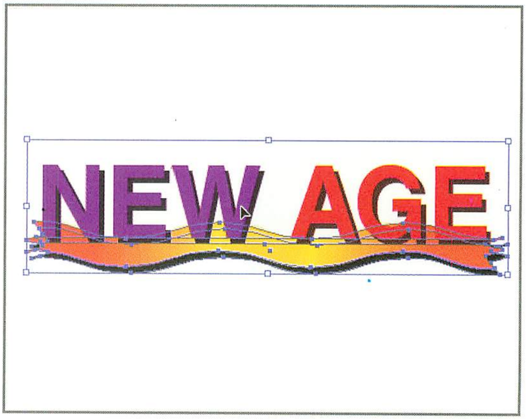
1 文字をドラッグして、最初のような位置に戻してください。



2 文字とリボンを一緒に選択しますよ。この場合、ドラッグすれば両方を一度に選ぶことができます。選択したいものの一部でも囲まれていれば、ちゃんと選択されます。



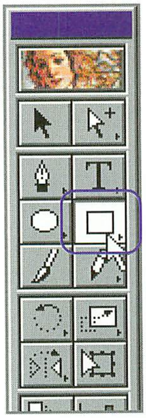
3 「オブジェクト」メニューの「グループ」を選びます。



4 これで文字とリボンがグループになり、選択ツールで動かしたときでも、全部一緒に動くようになります。

選択と前後関係の応用練習

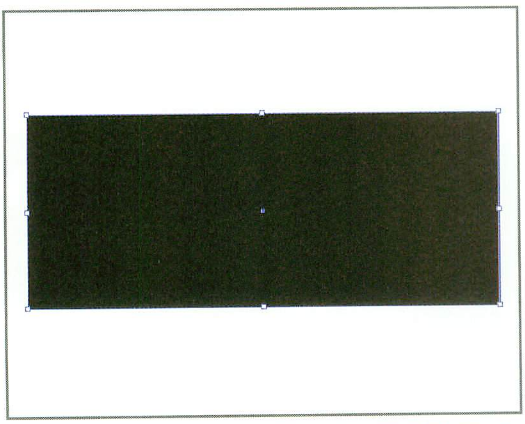
最後に、ちょっと意地悪な練習問題をやってみましょう。臨機応変に目的の図形を選択するのが目的です。ここでは、より選択操作を確実にするために、アートワーク画面での選択を紹介します。Illustratorには、アートワークという画面表示があることも知っておいてください。複雑なイラストなどを作成するときに役に立ちます。



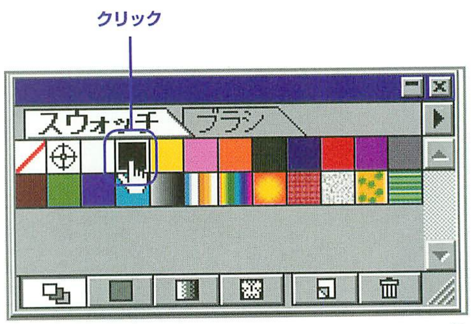
1 ツールボックスから長方形ツールを選んでください。



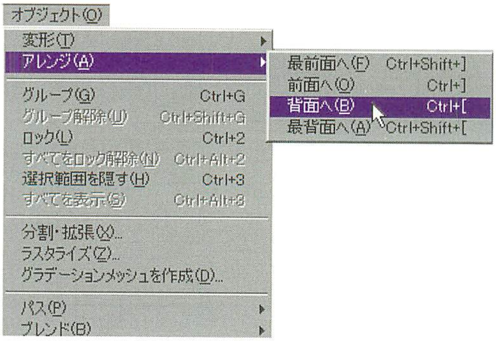
2 文字とリボンを囲む長方形を、ドラッグで作成します。



3 驚かないでください。文字やリボンが消えてしまったわけではありません。長方形はあとから描いたので、文字やリボンの上に重なっているだけです。



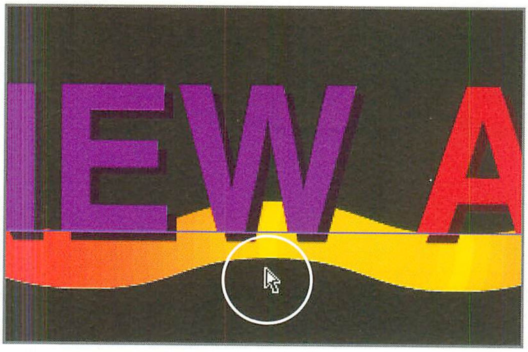
4 「塗り」が黒になっていない人は、スウォッチパレットで黒を選んでください。



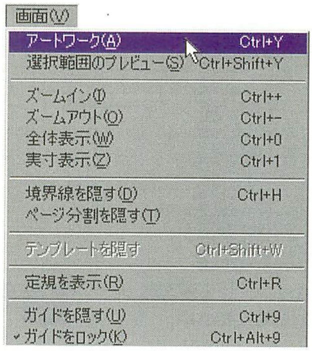
5 「オブジェクト」メニューの「アレンジ」から「背面へ」を選びます。



6 「背面へ」を2回実行すると、長方形が後ろへ行って、文字やリボンが見えてきました。



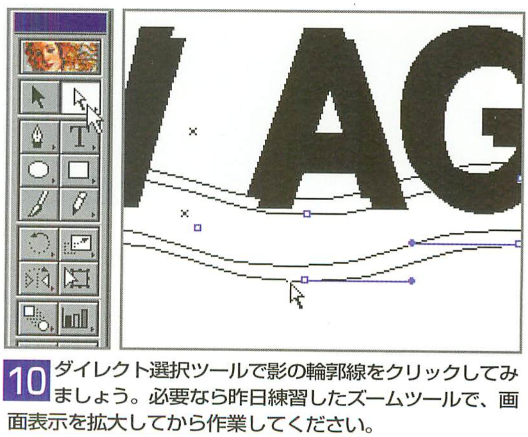
7 でも、よく見ると影が消えていますね。実は消えたのではなく、影の色と長方形の色がどちらも黒なので、わからないだけなのです。これから影を白にしてみます。しかし、影を選択しようにもどこにあるのかわかりません。



8 そういうときは、アートワーク画面に切り替えます。「画面」メニューから「アートワーク」を選んでください。



9 これがアートワーク画面です。アートワークでは色がなく、黒い線だけで図形や文字を表示してくれます。これで影がどこにあるのかわかりますよね。



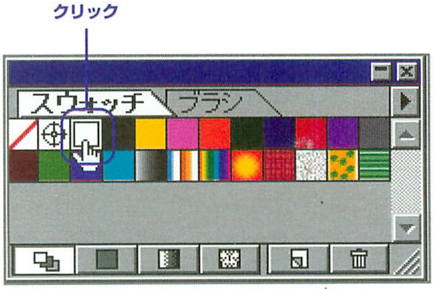
10 ダイレクト選択ツールで影の輪郭線をクリックしてみましょう。必要なら昨日練習したズームツールで、画面表示を拡大してから作業してください。

☞ヒント!!

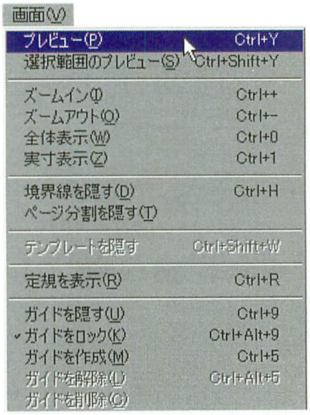
影を選択できない?!

うまく影が選択できない（文字が選択されてしまう）人は、一旦選択を解除してもう一度、なるべく下の方か端の方をクリックしてください。それでも選択できない人は、文字を少し上に移動してから、影を選択し直してください。

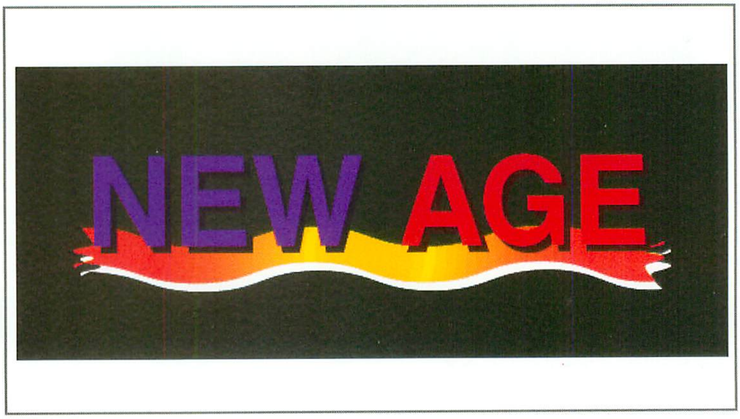




11 影が選択できたら、ツールボックスの「塗り」アイコンが選ばれているのを確認して、スウォッチパレットで白を選びます。



12 元の色つき画面に戻して影の色を確認してみましょう。「画面」メニューの「プレビュー」を選んでください。



13 ちゃんと白になっていましたか？　うまくいかなかった人は、もう一度アートワーク画面に切り替えて練習しましょう。

ここがポイント!!

プレビューとアートワーク

通常の作業をするときは色つき画面のほうがわかりやすいですが、後ろにあるものを選択したり、白や透明の図形を選択する際には、アートワーク画面が便利です。アートワーク画面では、図形は細い輪郭線で表示されますので、輪郭線をクリックしないと選択できない点に注意してください。アートワーク画面とプレビュー画面の切り替えは、「画面」メニューの一番上で行います。



アートワーク



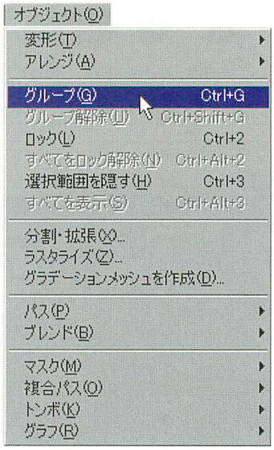
プレビュー

グループにまとめる→「グループ」

これでマークの第2弾は完成です。図形がばらばらにならないように、全体をグループにまとめておきましょう。ここではショートカットの使い方も紹介しますので、余裕のある方は是非ショートカットも覚えてください。



1 全体を選びましょう。選択ツールで全体をドラッグしてください。この場合はこれ以外に図形がないので、「編集」メニューの「全てを選択」を使っても選択することができます。



2 「オブジェクト」メニューの「グループ」を選びます。

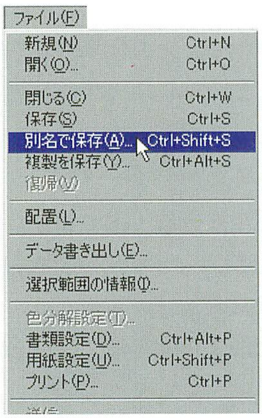
☞ヒント!!

ショートカットを使おう

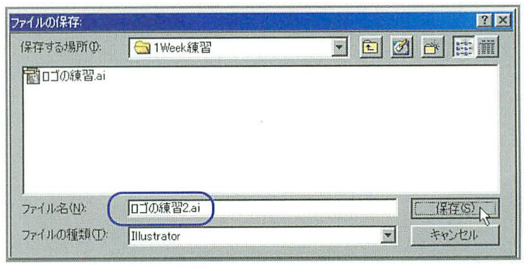
ショートカットというのは、メニューの選択をキーボードでやってしまおうというものです。メニュー項目の右側に表示されている記号がそれです。たとえば、「グループ」を実行するには、「オブジェクト」メニューの「グループ」を選ぶ代わりに、Ctrlキー＋Gでもいいのです（Ctrlキーを押しながらGを加えるといった感じで押してください）。GはgroupのGです。ショートカットはとても覚えやすいように作られています。「編集」メニューの「全てを選択」はCtrlキー＋A。これはallのA。「ファイル」メニューの「保存」はCtrlキー＋S。saveのSです。

名前を変えて保存する→「別名で保存」

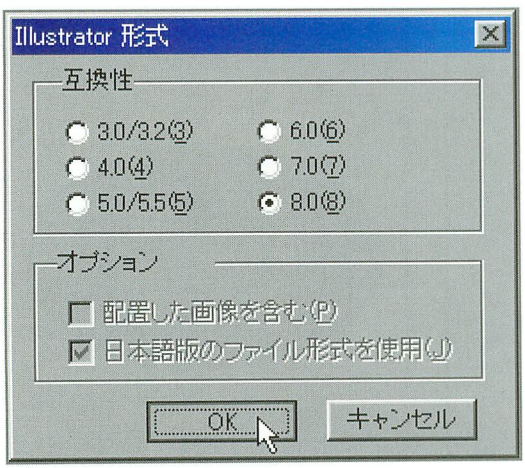
　では、マークを保存しておきましょう。ここでは昨日と違う名前で保存します。「ファイル」メニューの「別名で保存」を選んで、「ロゴの練習-2」という名前で保存してください。「別名で保存」のショートカットはCtrl＋Shiftキー＋Sです。



1 「ファイル」メニューの「別名で保存」を選びます。



2 「ファイルの保存」で、「ファイル名」が「ロゴの練習.ai」となっている行末をクリックして、「-2」としてください。「ファイルの種類」は「Illustrator」のままで結構です。そして「保存」ボタンをクリックします。



3 「互換性」は「8.0」のままで、「OK」ボタンをクリックします。これで今日の前半は終わりです。

Tuesday
1 WEEK MASTER
2nd DAY !!!

STEP 2 基本的な図形の作り方

図形がなければ始まらない

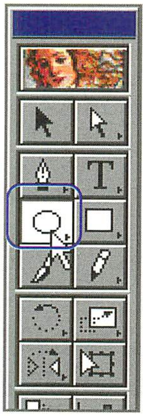
昨日から引き続き作成中のマークは、楽しんでいただけましたか？　「もっとすごいものを作りたい！」という人もいるかもしれませんが、その前に、図形の作り方をきちんと練習しておきましょう。このステップではこれから、基本的なことを練習します。複雑なものを作るときにはこういういった基本的な操作がものをいいますから、しっかり覚えてください。なにしろIllustratorでは、図形や線がなくては何も作れないわけですからね。

今回は楕円で練習しますが、長方形や角丸長方形も同様の操作です。また、ここでは適当な色を使っていますが、塗りに関しては水曜日の章で詳しく説明しますので、うまくいかなければ色の設定はしなくても結構です。

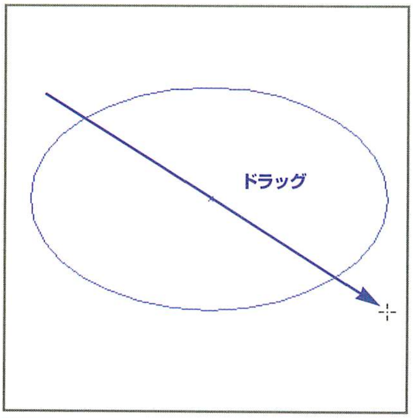
では、「ファイル」メニューの「新規」で新しい用紙を用意しておいてください。

図形の基本的な描き方→ドラッグ

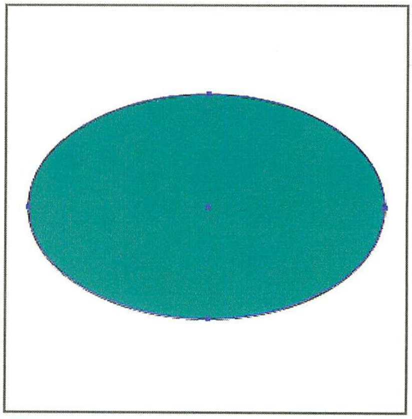
一番簡単な方法は、ドラッグして描く方法です。月曜日の章で長方形を作ったのと同じやり方です。



1 ツールボックスから楕円形ツールを選択します。



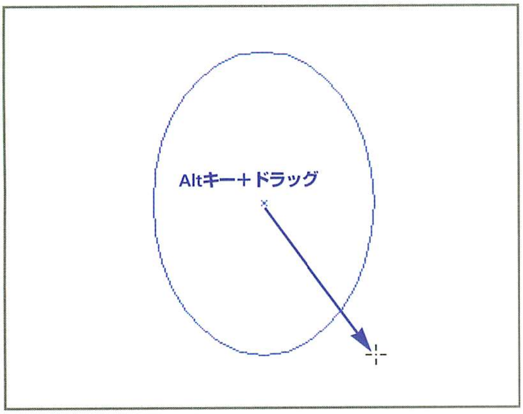
2 斜め方向にドラッグして、適当な大きさになったら、マウスボタンを離します。



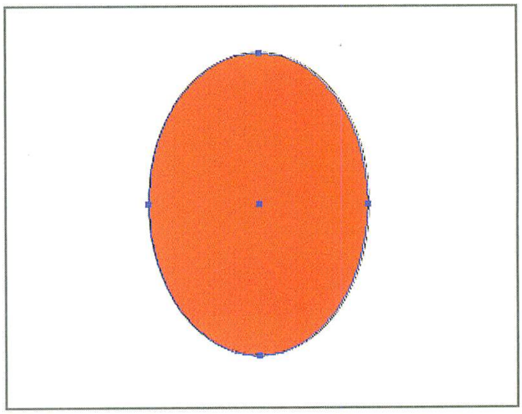
3 これで楕円形ができました。スウォッチパレットで何か適当な色をつけてみましょう。

中心から描く→Altキー＋ドラッグ

今度は中心から描く方法を練習してみます。同心円などを描くときに便利です。



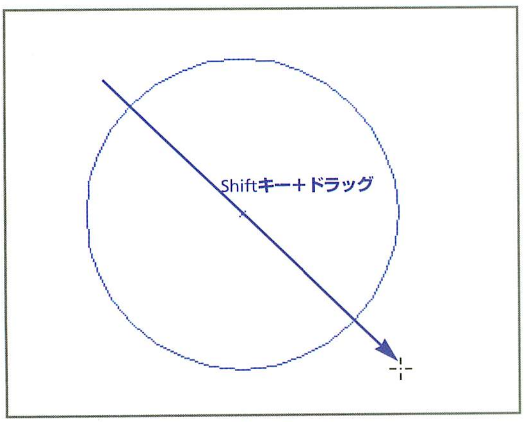
4 Altキーを押しながらドラッグしてください。中心から外側に向かって描く感じです。



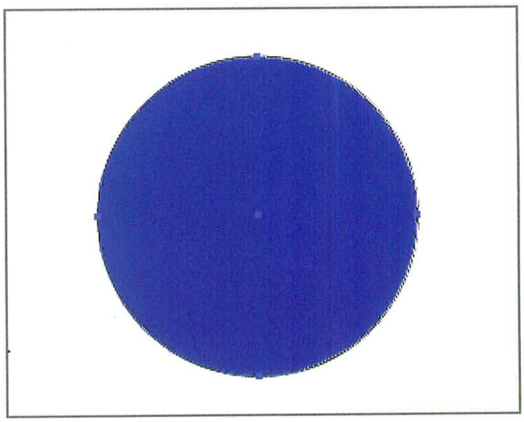
5 Altキーは最後までしっかりと押しておいてください。ちょうどいい大きさになったらマウスボタンを離します。それからAltキーを離します。

正円を描く→Shiftキー＋ドラッグ

Shiftキーは、マウスの動きを45度単位に制限する働きをもっています。線を描くときも、Shiftキーを押しながら描くとまっすぐな線が引けます。とても頻繁に使う操作ですからマスターしてください。



6 Shiftキーを押しながらドラッグします。Shiftキーを押している間はマウスの動きが45度に制限されるので、変な方向にドラッグしても確実に正円を作ることができます。



7 Shiftキーを早く離すと正円になりませんから、最後までしっかり押さえておいてください。適当な大きさになったらマウスボタン離し、それからShiftキーを離します。

サイズ指定で描く→クリックしてダイアログボックスを出す

実際の仕事では、図形を作成するのにサイズを指定することが多いですよね。数値で指定する方法も練習しましょう。

初期設定のままだと、サイズ指定の単位がpt（ポイント）になっていると思います。この単位は、変更することもできます。

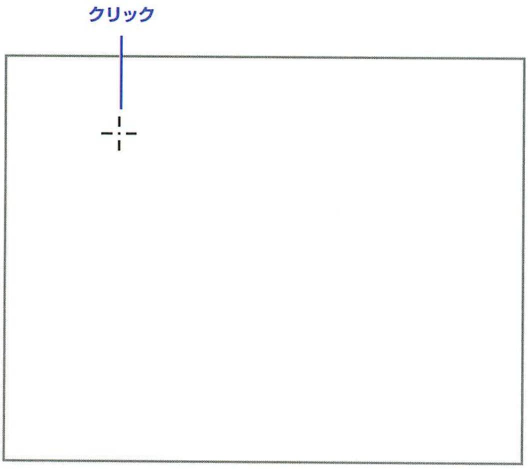
画面が図形でいっぱいになり、じゃまだったら、消して結構です。削除の方法はわかりますよね。消したい図形をドラッグで囲んで、BackSpaceキーまたはDeleteキーで削除です。

☞ヒント!!

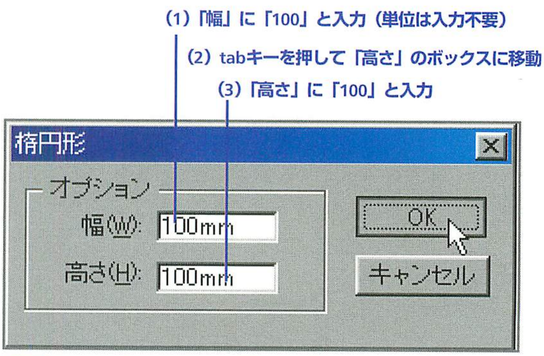
サイズの単位がptになっている人は…

サイズがpt（ポイント）になっている人は、どのくらいの大きさなのかピンとこないかもしれませんね。単位をmmに変更することもできます。数値の入力ボックスにある「pt」の文字を削除して、英語モードで「mm」と入力して、強制的にmmでサイズを指定することも可能です。

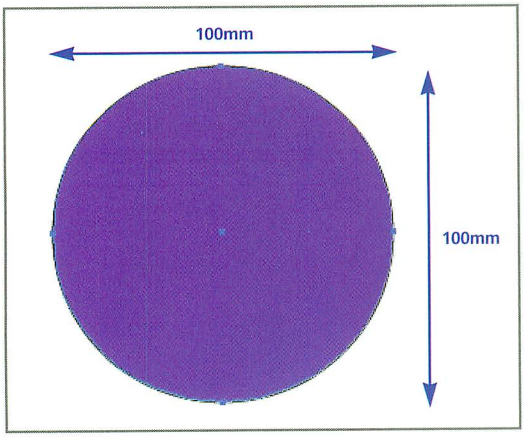




8 楕円形ツールで、画面のどこかをクリックします。クリックした位置が円の左上角になります。



9 クリックした場合（つまりドラッグしなかった場合）、Illustratorはサイズを数値で入力しろ！　と言わんばかりにダイアログボックスを出してきます。ここで「幅」と「高さ」に「100」と入れて、「OK」してください。

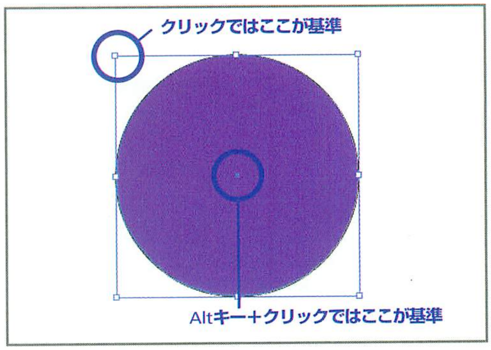


10 「OK」すると、指定したサイズの円が作成されました。

☞ヒント!!

円を作成する基準点

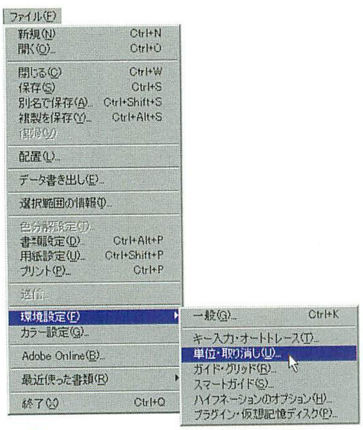
数値入力のためにクリックした場合は、クリックした位置が円の左上角になります。といっても、正しくは円の入る四角の左上角ですが。また、Altキーを押しながらクリックした場合には、クリックした位置を中心として円が作られます。図ではわかりやすいように、図形を選択ツールで選択した状態で説明しています。



☞ヒント!!

図形作成の単位を変更する

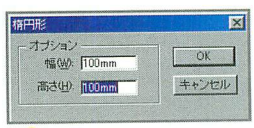
サイズ指定の単位は、初期設定のpt（ポイント）から他のものに変えられます。



1 「ファイル」メニューの「環境設定」から「単位・取り消し」を選びます。



2 「単位」欄の「一般」の単位名をプレスして、「ミリメートル」に変更します。



3 これで図形を指定するときの単位がmmになります。

特殊な図形たち

渦巻きや星形などの図形を作る方法を紹介します。といっても、専用のツールが用意されていますから、楕円形と同じようにドラッグしたり、クリックして数値入力して作成します。これらの図形をうまく作るコツは、ダイアログボックスを使うことです。ダイアログボックスでは細かい設定が行えるので、複雑な星などを作成できるのです。

☞新機能!!

ツールの切り離し

月曜日にもツールの切り離しについて触れましたが、覚えていますか？　これは8.0からの新機能です。

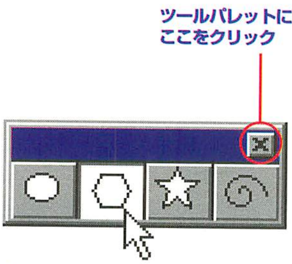


多角形を描く→多角形ツール

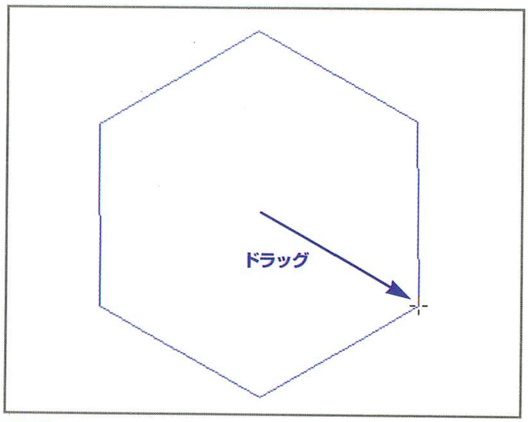
多角形ツールでの描き方は次の通りです。スターツールやスパイラルツールも同様の手順で作成することができます。

(1) ドラッグして描く
(2) クリックし、ダイアログボックスに数値を入れて作成する

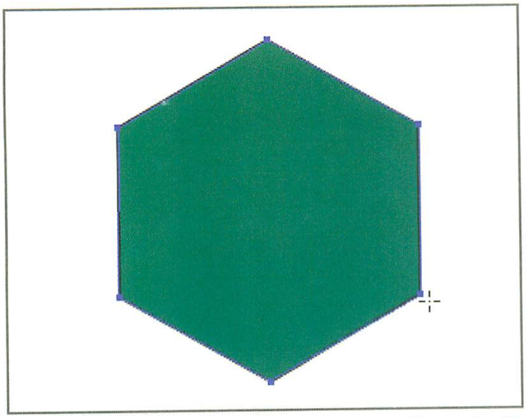
さらに、ドラッグで作った多角形を他の多角形に変更するショートカットも紹介します。これは便利ですからぜひ覚えてください



1 楕円形ツールをプレスすると、多角形や星を描くためのツールが現れてきます。では、これらのツールの使い方を練習しますから、作業しやすいようにツールを切り離しておきましょう。



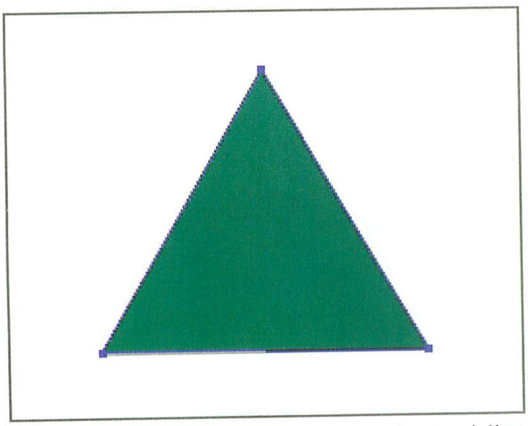
2 多角形ツールを選択し、ドラッグしてください。多角形ツールの場合は、ドラッグした位置を中心として図形が作成されます。



3 適当な大きさになったらマウスボタンを離します。初期設定では六角形ですが、もちろん他の正多角形も作れます。次にその方法を2つ紹介しましょう。



4 ドラッグではなく、画面上でクリックすると、ダイアログボックスが出てきます。ここで「辺の数」を変えて、他の正多角形を作ることができます。ここでは「3」と入力して三角形を作ってみましょう。数値を入力したら「OK」ボタンをクリックしてください。

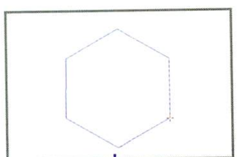


5 三角形ができました。ただし、この方法では、自分でドラッグして好きなサイズの三角形を作るということはできません。

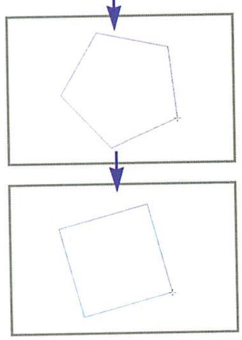
☞ヒント!!

辺の数を変えるショートカット

ドラッグで作った多角形から、大きさはほぼそのままに、他の多角形に変更することができます。



ドラッグ＋下向き矢印キーで辺の数が減る



ドラッグしながら、キーボードの下向き矢印キーを押すのです。そうすると、辺の数が1つずつ減っていきます。辺を増やすときは、上向き矢印キーを使います。

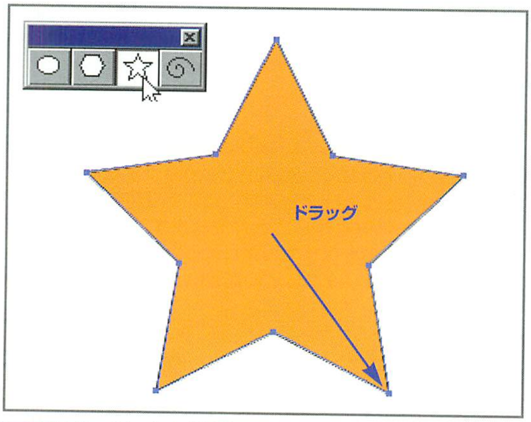
星を描く→スターツール

次はスターツールを使ってみましょう。これも2通りの描き方があります。

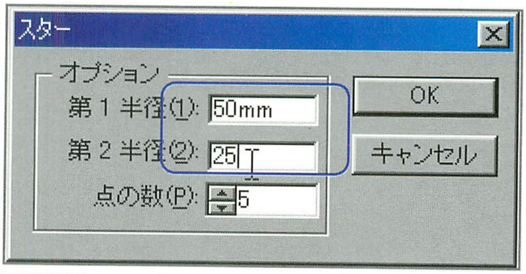
(1) ドラッグして描く

(2) クリックして、ダイアログボックスに数値を入れて作成する

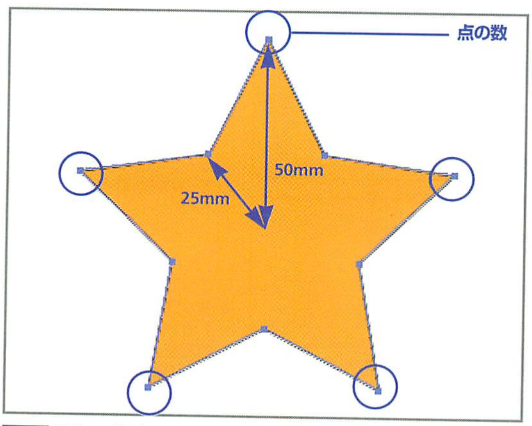
さらにドラッグしながら数値を変更するショートカット（57ページのヒントを参照）も使えます。



6 スターツールを選択します。ドラッグして適当な大きさの星を作ってみましょう。ドラッグした位置を中心として星が作成されます。



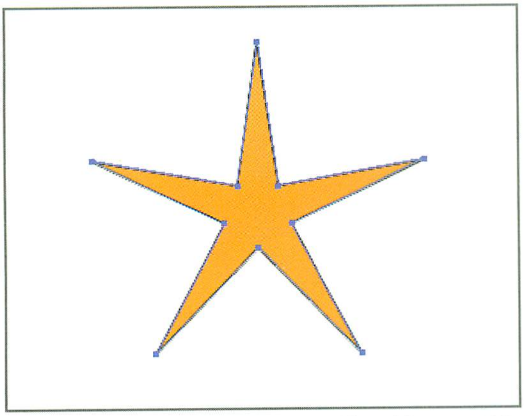
7 数値で星の大きさを指定するには、画面上でクリックしてダイアログボックスを出します。「第1半径」は外側、「第2半径」は内側です。通常の星は、「第2半径」の数値が「第1半径」の半分のサイズになっています。「点の数」は頂点の数です。



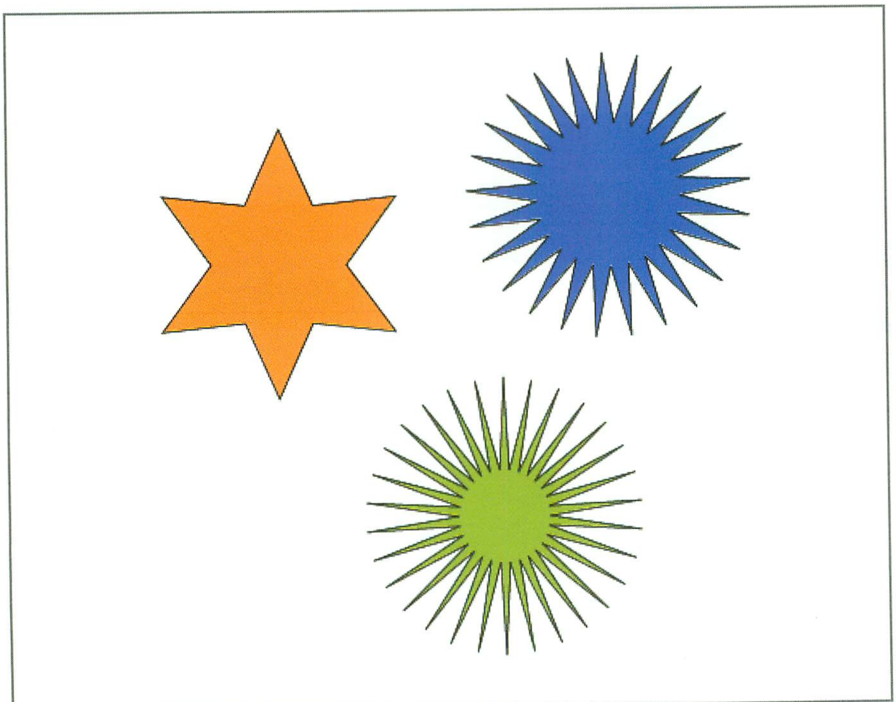
8 これで指定した通りの星ができあがりました。



9 今度は「第2半径」の数値を小さくしたらどうなるか試してみましょう。画面上でクリックして、「第2半径」に「10」と入力してください。



10「第1半径」と「第2半径」の差が大きくなって、こんな星形になりました。



11 いろいろ数値を変えて練習してください。右上は「点の数」を「12」にしたもの。とげとげが12本あります。これを、ドラッグ＋下向き（または上向き）矢印キーで「点の数」を変更することも可能です。

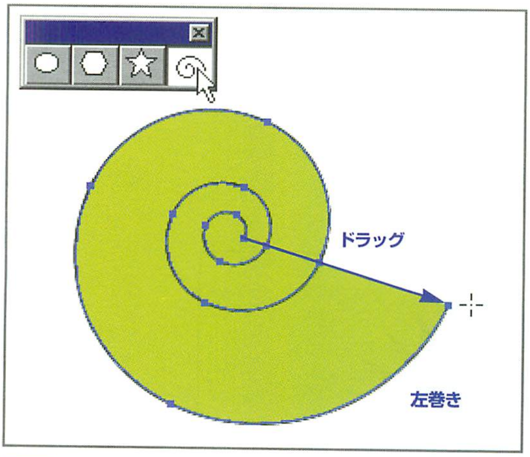
渦巻きを描く→スパイラルツール

スパイラルツールの描き方も、多角形やスターツールと同じです。

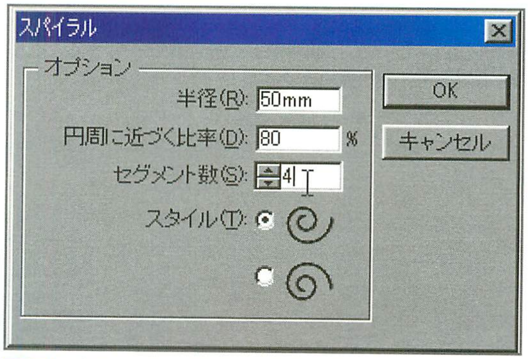
(1) ドラッグして描く

(2) クリックしてダイアログボックスに数値を入れて作成する

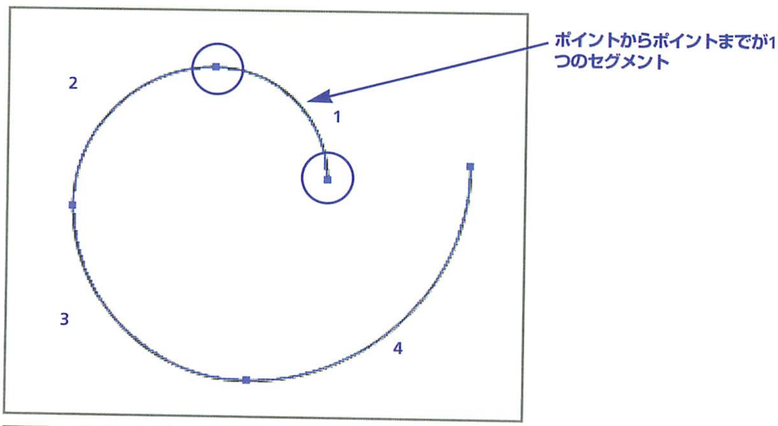
これも、ドラッグしながら数値を変更するショートカット（57ページのヒントを参照）も使えます。



12 スパイラルツールを選びます。適当にドラッグすると、渦巻きが作られます。



13 渦巻きツールで画面上をクリックしてダイアログボックスを出します。「セグメント数」を「4」にして「OK」をクリックしてください。

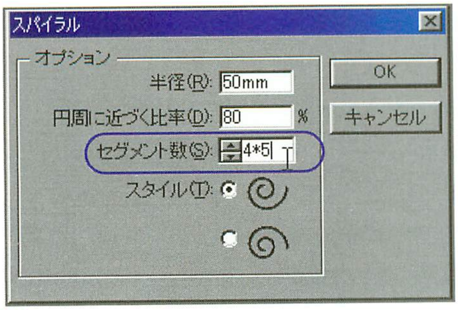


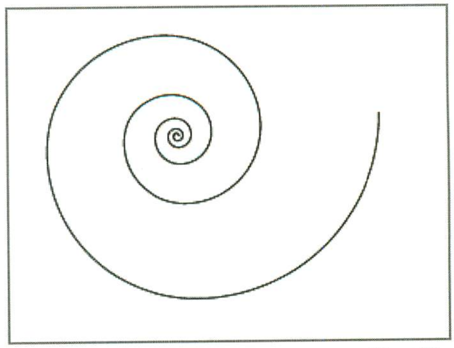
14 セグメントが4つで1回転になります。

☞ヒント!!

計算機能を使いこなそう！

Illustratorの数値入力ボックスは、実は計算ができるのです。これをスパイラルで使うととても便利。たとえば、5周させたいなら、「セグメント数」に「4＊5」と入力します。「＊」は掛け算の記号です。ちなみに割算は「／」を使います。





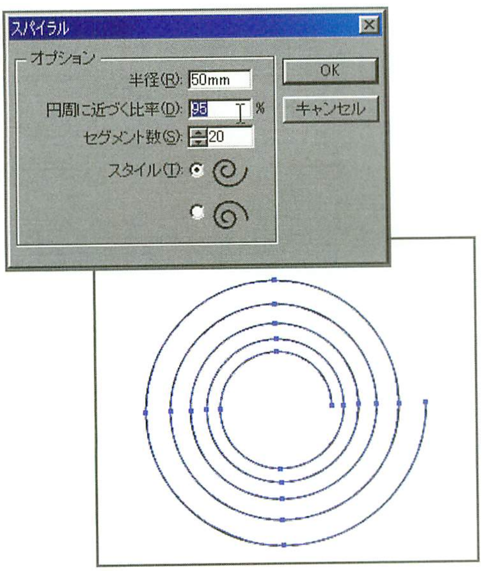
1 「スパイラル」ダイアログボックスの「セグメント数」に「4＊5」と入力します。

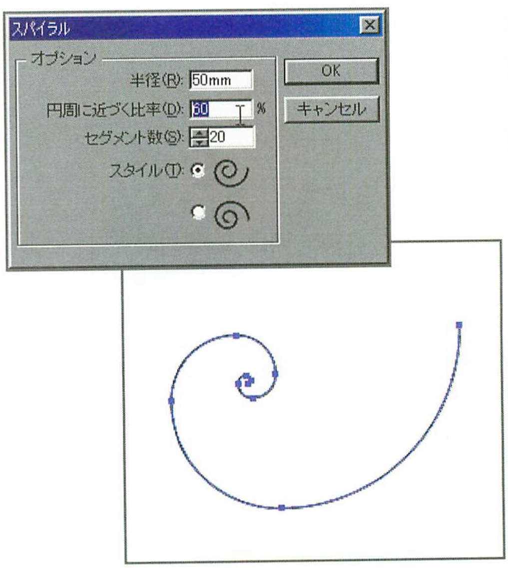
2 計算が行われてセグメント数が20の渦巻きが作成されます。

☞ヒント!!

ダイアログボックスを使いこなして、自由自在に渦巻きを作ろう

「円周に近づく比率」は初期設定では「80%」になっています。これは内側に行くにつれてどのくらい小さくするのかという比率です。この数値を大きくすれば、短い間隔の渦巻きになります。数値を小さくすれば、間隔の大きい渦巻きになります。全体的なサイズは同じでも、見た目のまったく違う渦巻きを作ることができるのです。また、反対方向に回転する渦巻きを作るには、「スタイル」で切り替えます。





1 WEEK MASTER
2nd DAY !!!
Tuesday

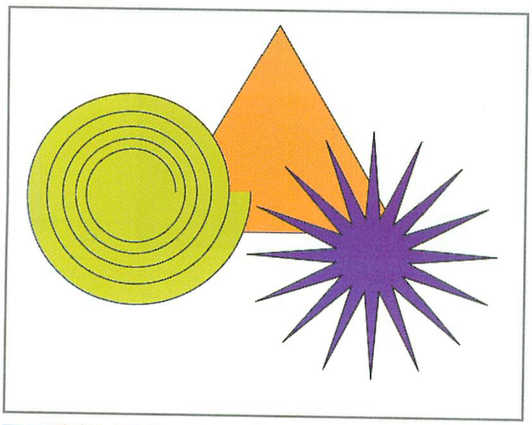
STEP 3 図形に色をつける

図形の色と線の色

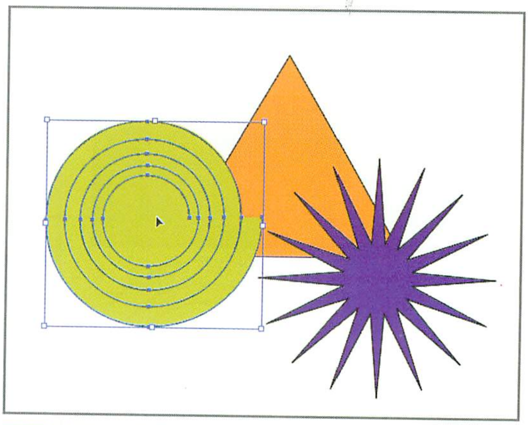
適当な図形を作成して、塗り方の練習をしましょう。先ほど練習していた図形は一旦、消してください。全部消すには、「編集」メニューの「全てを選択」、またはショートカットのCtrlキー＋Aを実行して、キーボードのBackSpaceキーまたはDeleteキーを押します。

これまで色つけは、スウォッチパレットから適当な色を選んでいましたが、今回はカラーパレットでもっと自由に色を使ってみましょう。色をつけられるのは図形の中身だけではありません。輪郭線にも色をつけることができます。

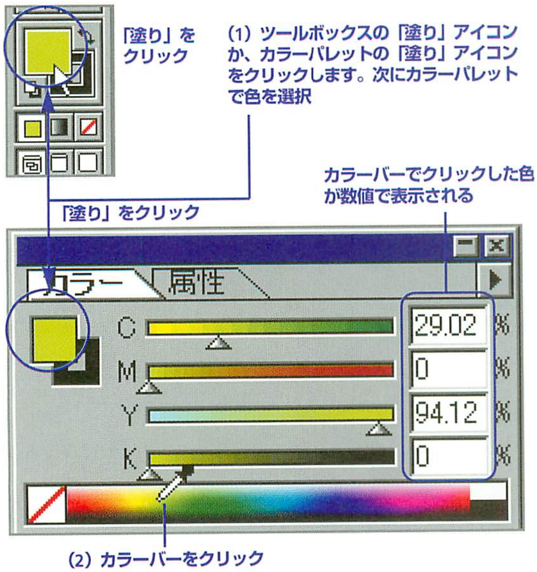
ここではカラーパレットを使いますので、画面に出ていない人は「ウインドウ」メニューから「カラーを表示」でカラーパレットを出しておいてください。

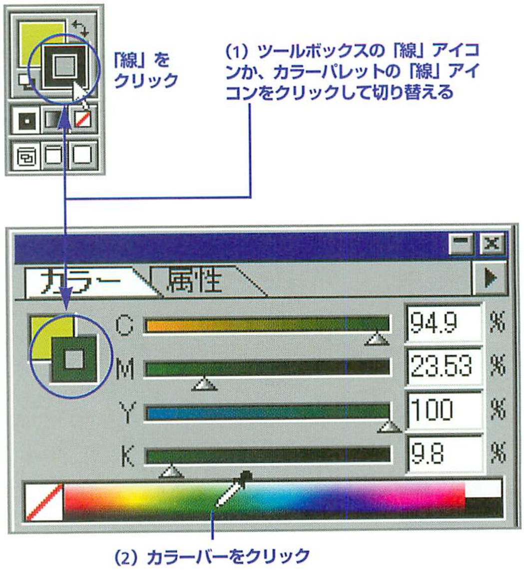


1 適当な図形をいくつか作ってください。それぞれの図形の色は同じでもかまいません（ここでは便宜上色を変えています）。図のように、図形同士が重なるようにしてください。



2 選択ツールでクリックして、どれか図形を1つ選びます。





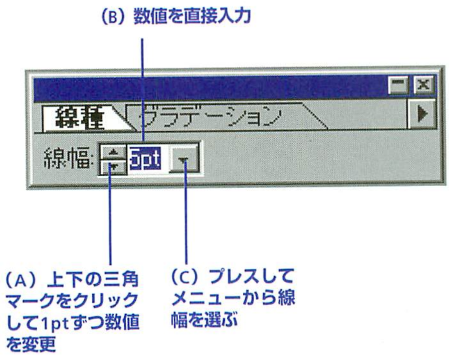
3 次にカラーパレットで塗りの色を選びます。ここではカラーバーを使いましょう。カラーバーにマウスを持っていくと、ポインタがスポイトの形になります。スポイトの先端でインクを吸い取る感じです。適当な色をクリックしてください。

4 線にも色をつけます。カラーパレットのカラーバーで、適当な色をクリックしてください。

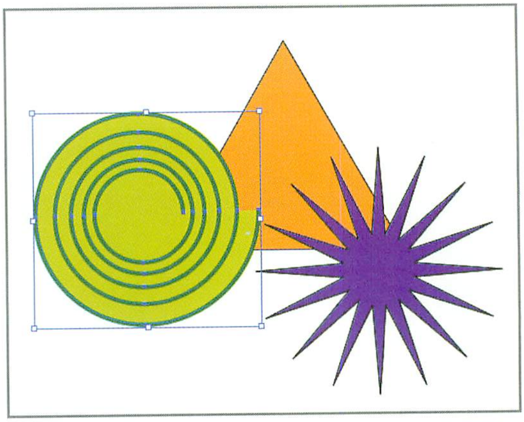
ここがポイント!!

色を選ぶ前に、「塗り」か「線」を決めておく

図形の色や輪郭の色をつけるときは、まず最初にツールボックス、またはカラーパレットの「塗り」か「線」アイコンを選んでおきます。それからどの色にするかを、スウォッチパレットやカラーパレットで指定します。



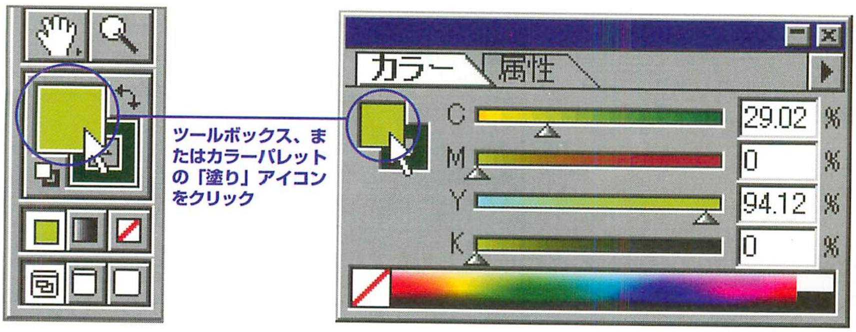
5 線が細いと色が見にくいので、線幅を太くしましょう。線幅を変更するには、線種パレットを使います。「線幅」の数値を「5pt」とします。数値の変更方法は図のA～Cの3通りあります（A～Cのいずれか）。確定するためにEnterキーを押してください。



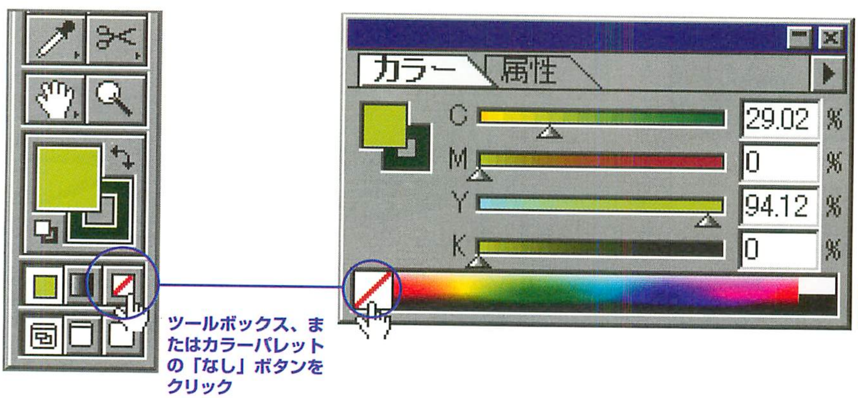
6 線幅が太くなって、線の色がはっきりわかりますよね。

透明にする→「なし」ボタン

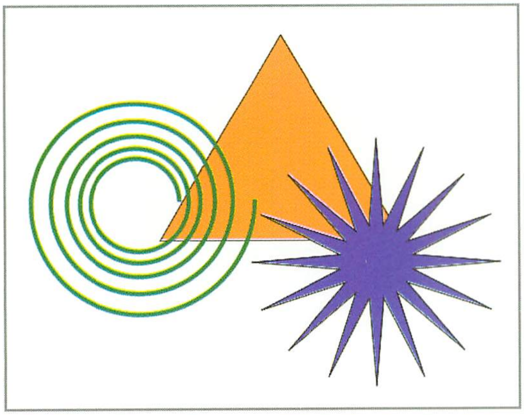
図形や線は透明にすることもできます。ツールボックスまたはカラーパレットの「塗り」、「線」どちらかのアイコンをクリックしてから、「なし」ボタンをクリックします。「塗り」「線」「なし」ボタンはツールボックスとカラーパレットの両方に用意されていますが、どちらをクリックしても結構です。



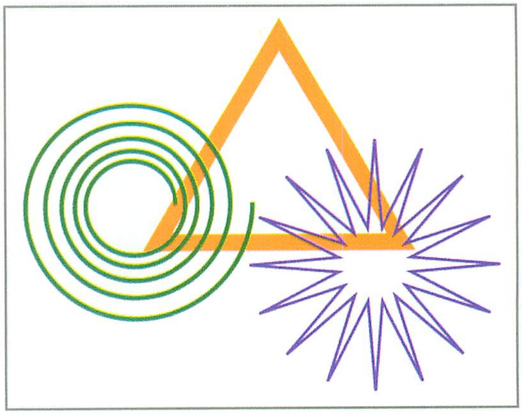
1 図形が選択されている状態で、「塗り」アイコンをクリックします。



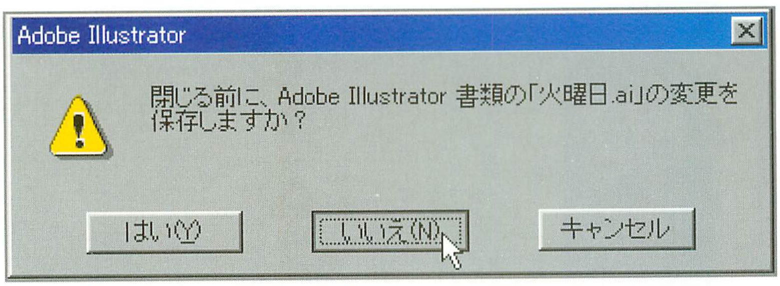
2 次に、「なし」ボタンをクリックします。



3 選択していた図形が透明になりましたよね。下にある図形が透けて見えます。よくわからないときは位置を動かしたり、前後関係（STEP1参照）を変えて確かめてください。



4 それではほかの図形も透明にしてみましょう。線には適当な色をつけて線幅を太めにしてください。

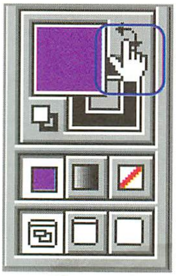


5 今日はこれで終わりにしますが、保存はしなくて結構です。「ファイル」メニューの「終了」を選び、図のダイアログボックスが出たら「いいえ」ボタンをクリックしてください。

☞ヒント!!

塗りと線で色をチェンジする

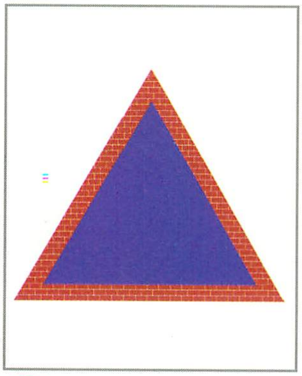
ツールボックスの「塗り」と「線」のアイコンの右上にある両矢印マークは、「塗り」と「線」の色を入れ替えるものです。クリックすると、色が入れ替わります。



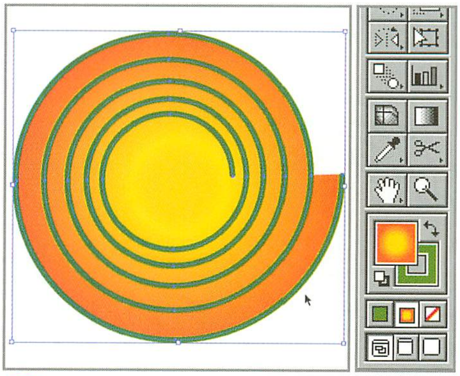
☞ヒント!!

線のことといろいろ

線には単色のほか、パターンも使えますが、グラデーションは使えません。



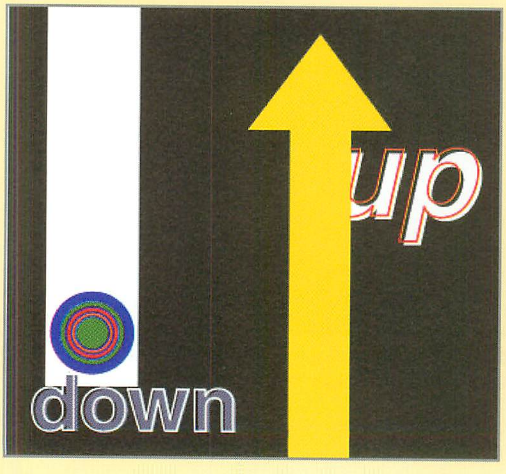
1 これはスウォッチパレットのレンガのパターンで線を塗ったもの。



2 線にはグラデーションは指定できません。線にグラデーションを指定しようとすると、勝手に図形の塗りがグラデーションになってしまいます。

ちょっとコラム 今日の練習の成果を見てみよう

今日練習したことはとても重要なことばかりです。ここまでマスターすれば、Illustratorでかなりのことができます。地図やロゴなども簡単なものなら作成できるはずです。時間があればいろいろ試してみてください。



◀今日練習したものだけで、これくらい作成できます。矢印は三角形と長方形を並べ、同心円を描きました。文字は、同じものを2回入力して、片方を線だけ（塗りは透明）にして、少しずらすだけでちょっとした効果をつけることができます。